

提言第3号 注射剤によるアナフィラキシーに係る死亡事例の分析

事例番号：事例11

< 事例概要 >

- ・維持透析中の70歳代男性。透析室で発症。死亡時画像診断（Ai）無、解剖無。
- ・原因薬剤は、蛋白分解酵素阻害薬のフサン。
- ・過去にフサンの特異IgE・I・II抗体の陰性を確認。その後、フサンを4回使用したが、アレルギー症状の出現無。
- ・フサン投与開始（透析開始）から2分後に頸部の痒みを訴え、6分後に意識低下・眼球上転、7分後に徐脈となり、8分後抗ヒスタミン薬投与。13分後にアドレナリン1mgを静脈内注射、気管挿管し救急処置を実施するが、約11時間後に死亡。